睡餘小録

151
内閣文庫
和書
二五一二一
九六
函
三九
架
三
冊

内閣文庫
第
書
共

和書
門
二五一二一
類
號
九六
函
三九
架
三
冊

内閣文庫
番號 和 25121
冊數 3 (1)
函號 198 151

内閣文庫

致

臨終小録序

[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

ぎりとあるうちにもいとうらやましく
わがのりをうしなはしれもこの世の
中をすてまほしれもまたつれなきものを
しらでなりわびあるをきくにつけても
よりひこ二條の内大臣はこれ
へこそのうへをとりてはるの梅はる
未だ花さんめりふかぬまのはるの
ふかぬまのうらみをしのばしく」

上一

なりぬれば物を高殿に集侍りて春
はるのくれぬるをいとをしみ給ふ
ふるとはなくれなゐの水くくるとあり
ながらはるをまちぬるの人は
まちるはちりやすくまたくれぬ
嬬ゝこの方はまりしまたはいつこそ
あはれとも世をふるわのいまはは

睦餘小録上目次

畧以時代相次

伊都内親王手判
西國巡禮札
惺窩先生義絶置文
福島正則卿注文
八千代小藤艶書
好物訓蒙圖彙
宋板太平寰宇記
松田頼隆主口宣案
石川丈山劍刀
宮本武蔵印
石井元政艶書
浅野長矩主印

文化三子孟春

西村勘解由判官出羽守正邦主

源勘

上 二

武林隆重印

小野寺秀和夫婦短冊

宝井其角手簡

信長ゟ釜

大石良雄手簡

横川宗利請取

芭蕉蠻刀圖

戯場ゟ驗

伊都内親王皇胤紹運録ハ伊豆に流ル桓武帝ハ
皇女にして左原行平業平乃御母なり行平流
父阿保親王皇叔母の伊豆内親王式部ゟ出る
ハ此手判天長年間山階寺ハ願文ハ押ゟ給
ふ業者ゟ橘逸勢ハ今上石ゝ世ゟ流
布仕れ申ゟ為ゟて其面目を奉ず宣旨帝乃
内書にも此ゟ御ゟ判ゟ給ふ移民国ゟ
願出ゟ切ゟ許ふゟ利ゟ

上四

寛政巳未の春宋板乃大学裏字記の殘闕吾手を獲ん
由来金澤文庫中の物ども轉傳して洛北の一禪刹よ
り数〻代を経て其手に得らるゝ数此裏字記を
他の宋板本と違ひて大なる紙の今俗
横三尺六寸四分縦三尺八寸四分男の四方陽に七寸八
分横壹尺三寸行間十一男ゆくゝ字の字数二十字
ばかり紙の質堅硬にして半邦の製に異なる人ひとふ彩

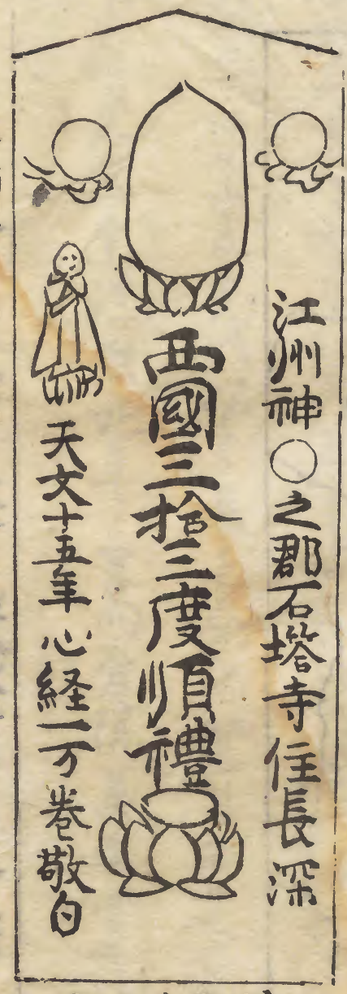
往昔我邦より紙を渡して摺ものゝ始めんとて始めて宋邦
にて印本大内本宝利本などにて此説をひのゝ発案板
に此筆法閑氏是唐山別に一種の紙ゆゑ大内本宝利本活
字本等よりも雑疑書目ゆゑ見るべし又この寰宇記乃表紙の
百ゆゑ凡二分ばかりもいたすべし清嘉紹熙慶元寶祐
等の記年ゆゑ古氏ゆゑ是を今繁割すべし賞ぶべし
按ずるに宋孝宗淳熙元年より高倉院兼安元年にあたり

在縣西十里南接蒼梧北通道州山有古度木實

八八六六 字記

西國順禮の支日蓮上人法書ものこれる近日諸國の觀音巡順拜
をなすこの一両輩茅庵に叩きて下階 ゆるしをこなし
じも札所の支を應永の頃より專らゆるしをこなし今京
師に順礼の古札を藏する人往々あり支人寺井爾居ら
為せるこの摹して左に載せる

堅三寸六分

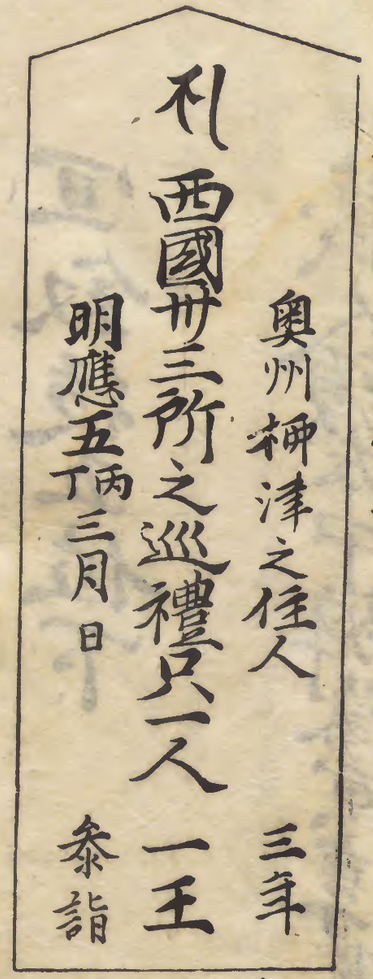


横三寸六分

真鍮をもつくるなる

上六

堅三寸五分



横二寸八分

此金子ら見るに初めこの
○應永十九年四月奥州白川住人與二郎
○文明十一年八月紀伊國伊都郡古摩村彦五郎
右京師人服部周益所藏 共に本紙なる
○文明三年四月丹州保津住般若左衛門尉
右京師人久我屋利右衛門所藏 紙なる
○永正七年江州山本村住人松田太郎兵衛尉
右浪華人大黒屋善藏所藏 本紙なる
すべて應永以後のものなり

上卿廣橋大納言　宣旨

永徳二年十二月十三日

平頼隆

宣叙従五位下

蔵人頭左中辯藤原淳光奉

上七

此ハ松田豊前守頼隆主叙爵（ジヨシヤク）の口宣案なり廣橋ハ國光公なり

淳光ハ伊原大納言なり袖判ハ義輝公なり足利殿ハ世ハ武家

の口宣案ハ御判をかくなりと見えたり

然一筆書ハ天正四年ハ秀吉ハ光秀ハ柴田ハ

自然ハ田舎合戦ハ天正ハ四年ハ

相違ハ秀吉ハ光秀ハ柴田ハ

秀吉ハ光秀ハ文保元年十月廿五日

羽前守ハ光秀ハ相違ハ

[illegible]文福二年○二月[illegible]
[illegible]六条[illegible]西堂和睦[illegible]
[illegible]今度□[illegible]柳[illegible]病[illegible]
五月[illegible]百[illegible]□[illegible]
[illegible]遠[illegible]
[illegible]遠[illegible]五[illegible]入
[illegible]柳[illegible]時[illegible]
[illegible]○[illegible]
[illegible]
[illegible]一[illegible]
[illegible]

上八

[illegible]

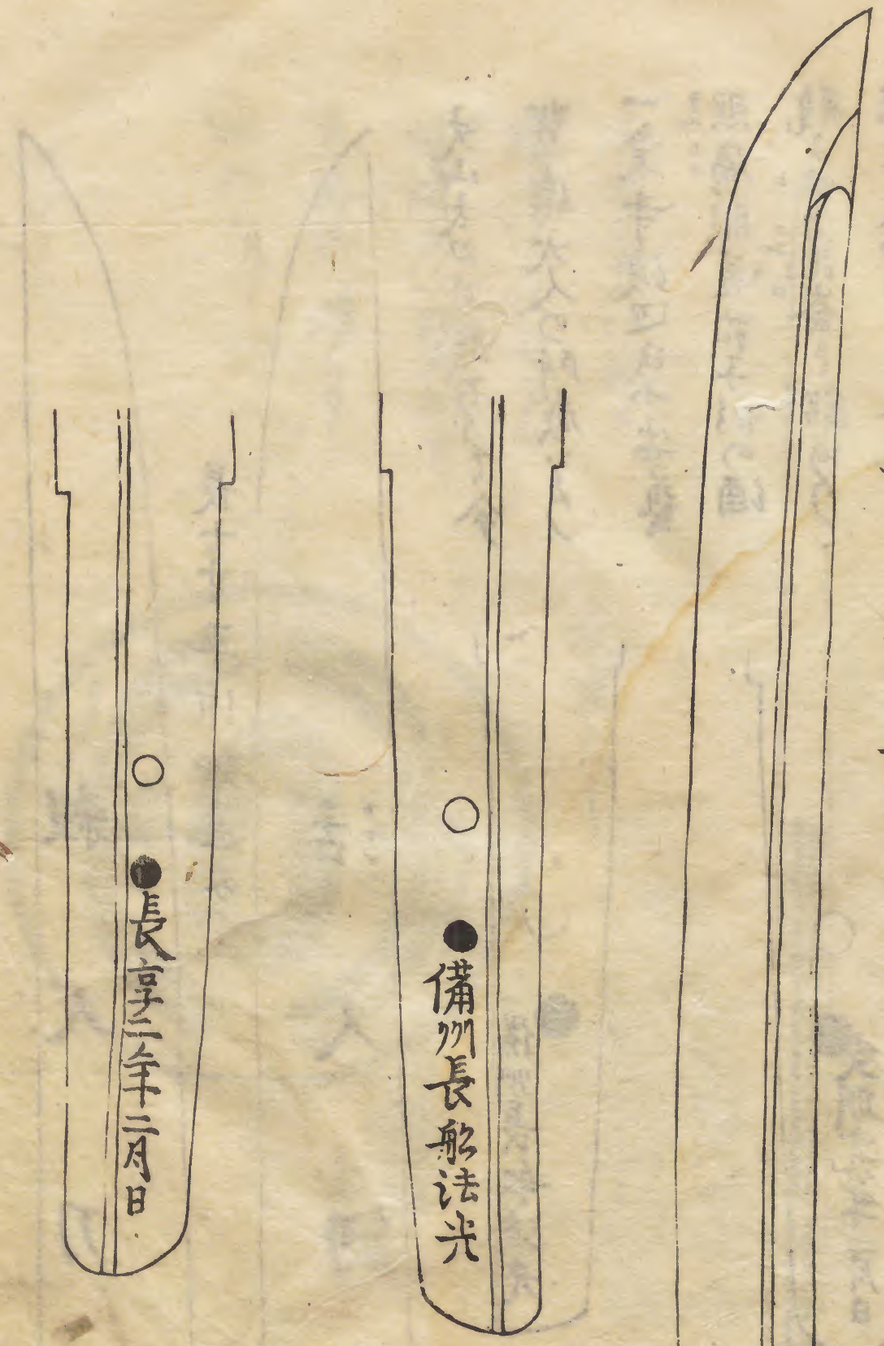
文福三年甲午六月[illegible]日

等彦院住持

寿泉和尚

寿泉和尚名八清叔相國寺普廣院住侍下冷泉為孝卿の子[illegible]大德寺董甫仲和尚の弟子[illegible]惺寓先生[illegible]
[illegible]叔文[illegible]或書[illegible]惺寓[illegible]清叔の弟子[illegible]
[illegible]先生[illegible]僧[illegible]
[illegible]詩文[illegible]其[illegible]書[illegible]稱[illegible]文殊唱[illegible]

寧ろ寿文文禄三年八歳寿ゆ屋世四歳のうち也物ごとに
先生此頃ゆ憤ゆ式発〻て孤ゆ儒ゆ帰ゆ〻はず先
ゆ名文に名式肅字を斂夫ゆ及む惺寓に貫ゆ也あゆ
妙壽院ゆ本ゆ号〻ゆ活ゆ隠ゆ式ゆく北肉山人
ゆ移に拳白集に世ゆ人ゆゆゆに則ゆ也ゆ
元和五年式ゆ〻辛に世壽五十九林羅山那波活所
堀杏庵菅得庵松永昌三宅亡年等ゆく皆
當時ゆ大家ゆ〻先生ゆ門ゆ出ゆ



殺人刀

長七寸平作細直刃

活人劔

丈山太刀刀故あるて今
賀樂大人の所蔵なり
一葉寺渡辺氏か安藝
照廣(テルヒロ)脇差茄子形の酒
瓶と紫崑崙(シコンロ)と銘(メイ)あり
共に丈山乃遺器也

○備州長船法光

文明十九年二月日

法光太刀に掛る
鍔(ツバ)ハ信長公より
婚(ムコ)万里小路大納言
充房卿へ贈らる
物なり

厚さ
壹分

表裏同〜

[illegible]

一次少袋[illegible]　[illegible]付ケテ
[illegible]紀俊秀

一史香箱[illegible]　[illegible]紋唐草荷物

一下帯　[illegible]　地黒紀俊秀
[illegible]黄俊秀

四丁

上十一

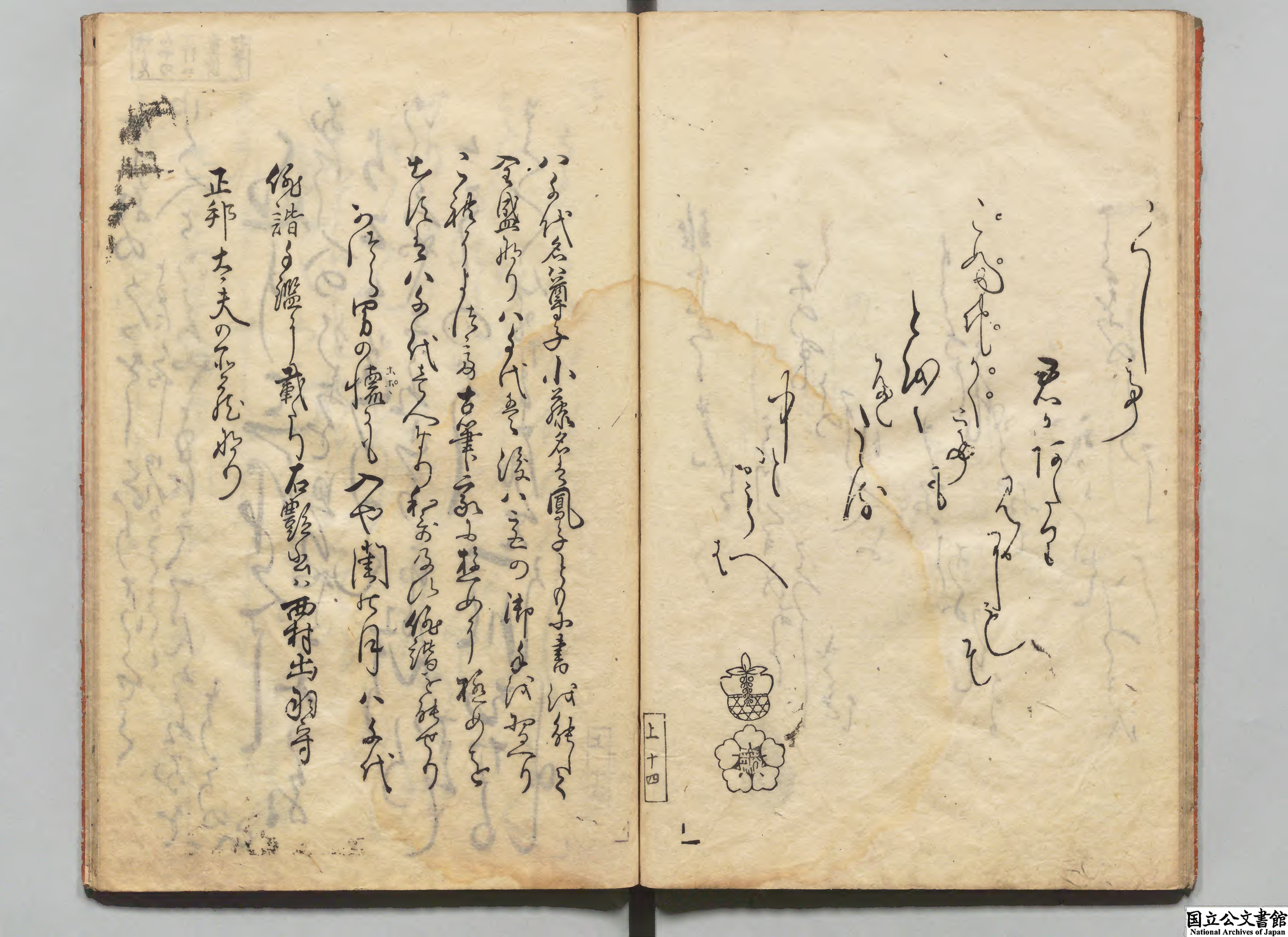
[illegible]年四月廿四日[illegible]

十月廿三日　[illegible]

[illegible]

羽左衛門太夫の中略カ

宮本武蔵名を政名二天と号し赤松の庶流
なり父は無二翁と云因て無三四と書り自ら
日下開山と稱し神明流乃祖なり正保二年壬申
十九日没法名玄信二天と云



上十四

八子代名簿子小系名鳳子ハ書付給ふ
全盛ハ八子代ハ後八王の御子代ハ
こゝ給ふ古筆家ハ極めて極めと
世ハ八子代ハ人ケ和歌俳諧を給ふ
ハ子代の懷(ホボ)も乃ち閑ケ月ハ子代
俳諧を編ふ載ふ石碑出ハ西村出明寺
正邦大夫の所為ハ

国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]
[illegible]
[illegible]

元政翁冠乃頃重仲ら斷紬の契あるて贈ラ〜文あり
重仲ら手蹟ハ元政翁ら此本書福井氏藏あり

野物訓蒙圖彙

洛中洛外人作書屋文彩三百餘年

[illegible]貞享三年洛中洛外[illegible]
[illegible]時入名數乃ち世[illegible]
[illegible]載ら[illegible]年ゴ三[illegible]
[illegible]
名[illegible]
[illegible]

訓蒙圖彙 倭國。唐土。君川。小[illegible]

[illegible]

[illegible]

傾城太夫

吉野太夫

天神 格子

杉屋のそ

訓蒙圖彙 小杉屋節風をしたうて江戸にくだる廿八人と三人はいつれも名人の丈のなどぬくらん

上 十七

鹿恋 格子

江戸玉ろ

訓蒙圖彙 鹿戀を十六文四の十六とも九〻

半夜

小ろて

訓蒙圖彙 半夜を九文とるとて

端化契

訓蒙圖彙 端午 屈原の忌日 化契 ちゑの中きりて小銭ばらひ衆生に出給ふ

北向

訓蒙圖彙 北向 小方が横町にあるあて名のこやがらを書すこと多くかゝれをけるをたゝし京中通用を絶て久しかるべし

湯娜 風呂屋 扮装

訓蒙圖彙 風呂 ものゝ上に竹おこしのゆかを敷衣類を置 穢悪出さず 板つまりなく 神田ちんとん ちんとん 知りひもの 烟管 解さず 酒ち節 豆まき ゆかしてるみず 洗きるく 世はれる 祝の 川ちゝめ 段 ゝ 遊廓 寛永十四年 江戸中 風呂 若女 ちゝ 者 ゝ 出 風呂屋 ゝ 白人 ゝ 十四ゝ

比丘尼 九女

訓蒙圖彙 いつゝ ゝ 黄 水晶 さし 眉 ゝ 墨 引 ゝ 帽子 ゝ ゝ 加賀 ゝ 雪 ゝ 月 ゝ 目 ゝ 墨 遊廓 小永 ゝ 姿 ゝ 松 長 息 ゝ 比丘尼 ゝ

訓蒙画彙 今より名ちろ上りの大和のくに。五ぢまのきこぷやまちたちのぷちろのまん。六ぢまのさんがか。七ぢまのあまぎこまちろ。八ぢまのあまぎこまちろ。

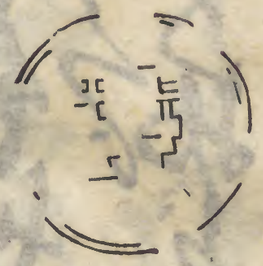
想嫁

想夫恋
賣女
夜發

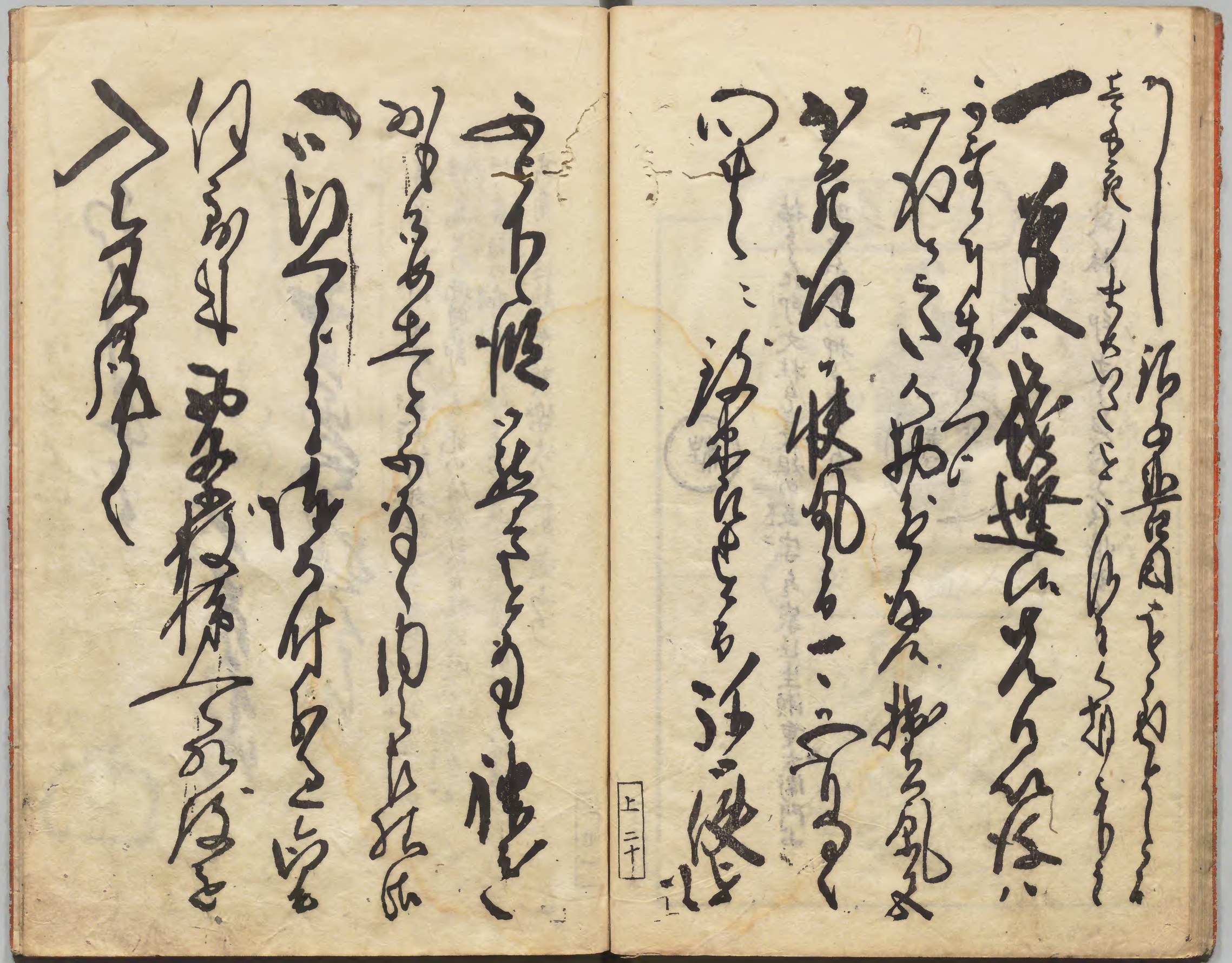
人置口鼻

拙者に印文柱に長矩の及字を家臣生瀬重左衛門が

請て是書に押る所なり



武林の印文まもべらるべ恨ず



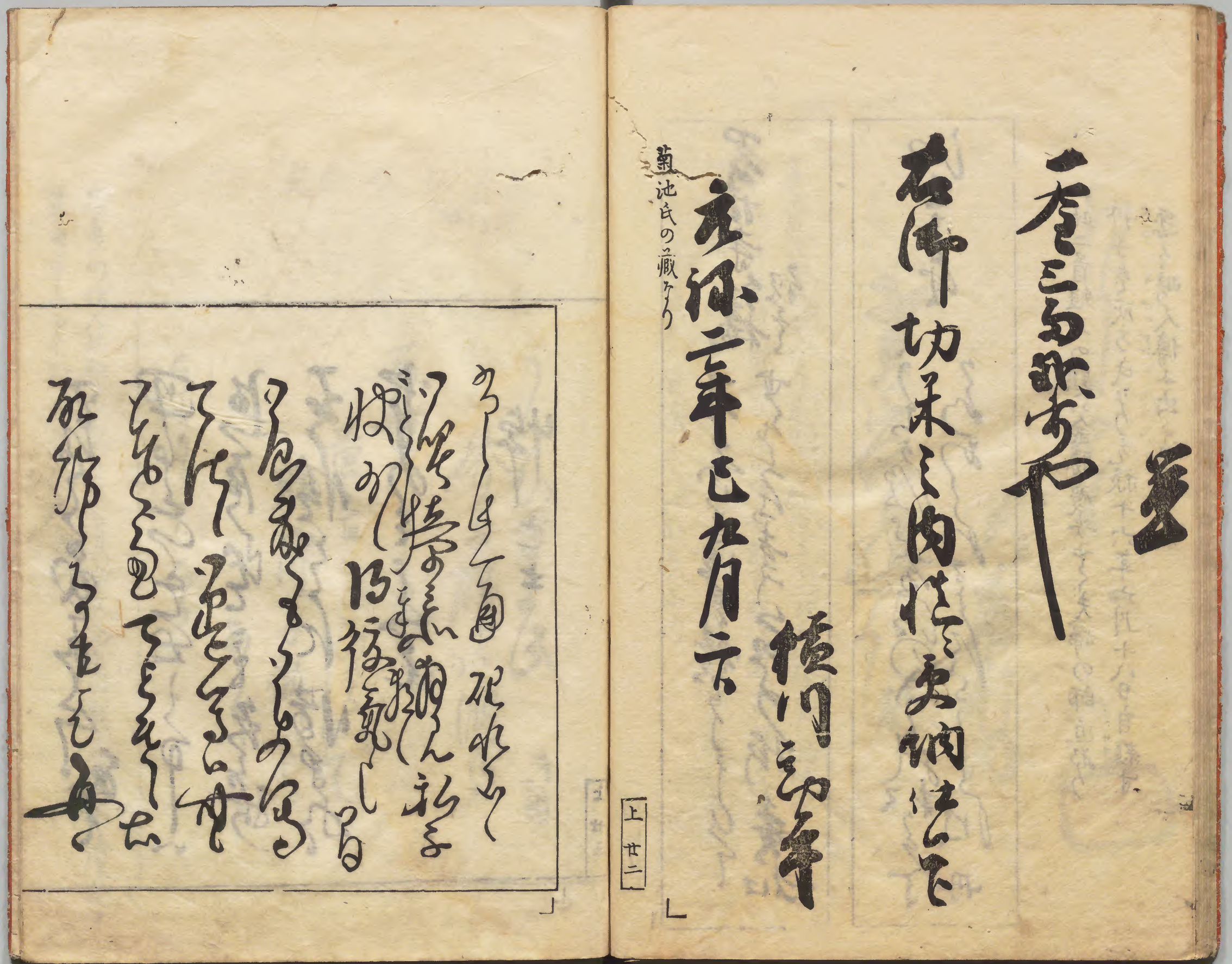
善五郎ハ井川氏ヨリ戯手簡戯謔ヲ二百文の碎金ハ拍木に
贈ん為なり此時節一文銭の碎金數百粒紙遊女に贈ル
行ヲ良雄の鄙名を浮と云フ此手簡并に小野寺夫婦短尺
其角の返簡を賀樂大人ハ取藏ヲ

上廿一

冥土寺紅梅　丹子
秋ぞ世ぞ　秋の梅　秀和

江戸言葉

此二首短尺の題ハ金勝慶安寺夫婦の師匠なり
丹子ハ灰方氏なり元禄十六年六月十八日自殺す
秋ぞ時人傳ハ出ル



菊池氏の藏ヶ

上廿二

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

悔亡

上廿三

[illegible]

[illegible]

百世のさきをしらんとて

黄金をつかひて

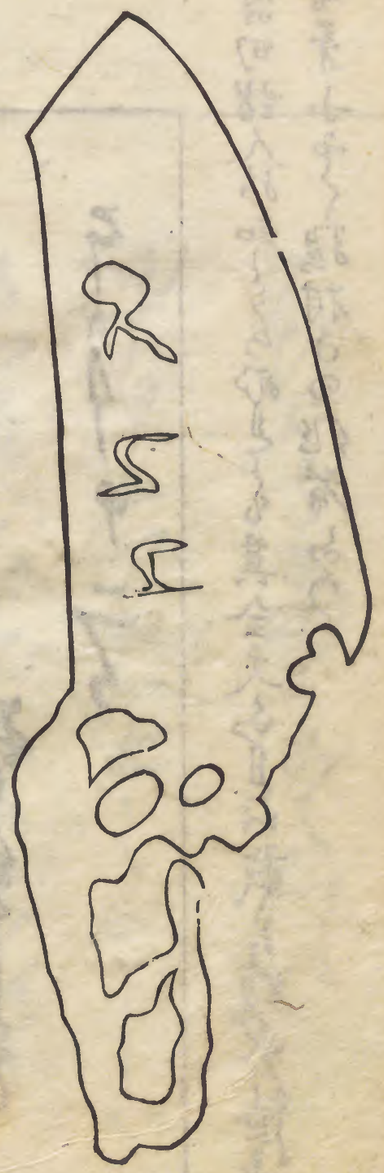
肺腑より癒るあるべきなり

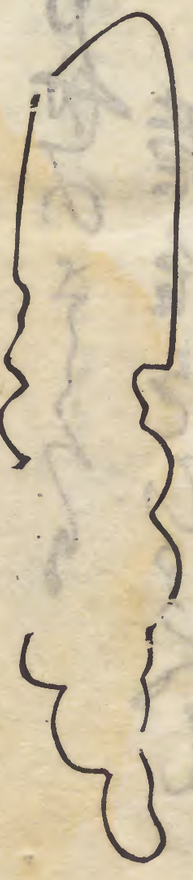
[illegible]

其角の句諸人はなはだ知る所なれども其全文をもとゝ載せる硯水梅葉紙

其角子ゆゑ類相子の作者なり

蠻刀(バンタウ)の圖と
俳人芭蕉常
にたゝらしこの
形る紙箱の去来に與ふる所なり事八落柿舎日記に委し
落柿舎三代山本氏より此圖を得たり





此釜ハ伊勢
芦屋の
信長ゟ
左京亮宗延
お賜ふ共蓋(トモフタ)あり
しゐ形失しぬ

劇場（バイ）の名驗（キツテ）を元禄寶永の時分のものとかゝる

無佛光人（カタ）を語りまゐる

瞳餘小錄上卷終

上

国立公文書館
National Archives of Japan